

イブニング・レクチャ 2

保育における環境の構成

柴 崎 正 行
(東京家政大学)

はじめに

現行の幼稚園教育要領や保育指針では、保育者の専門性として環境構成の重要性が示されている。だが実際には、環境を構成することの意味と方法が広く共通理解されているとは言い難い状況であるように思う。そこで本レクチャーでは、保育において環境を構成するとは保育者がいったい何をどうすることなのか、また実際に環境を構成するときには保育者はどのような要因を考慮して進めていけばよいのかなどについて、参加者と共に考えてみる。

1. 保育における環境とは

保育を展開していく中でふれることのできるものすべてが、子どもたちにとっては環境としての意味をもってくる。そうした環境には、保育者が意図的に操作できないものと、意図的に操作できるものがある。それぞれの環境としては、次のようなものが考えられよう。

- ① 無意図的環境（保育者が操作できないもの）
 - 自然事象（季節、天候、自然現象、生き物など）
 - 社会事象（行事、出来事、事件、友達関係など）
- ② 意図的環境（保育者が操作できるもの）
 - 物的環境（場、空間、遊具、道具、材料、素材）
 - 人的環境（保育者、子ども、保護者など）
 - 社会的環境（園行事、食事、昼寝、散歩など）
 - その他、時間や雰囲気なども意図的環境であろう

2. 保育において環境を構成するとは

保育において、これらの無意図的環境や意図的環境を構成するとは、具体的にはどうすることなのであろうか。それには次のような方法が考えられる。

- ① その環境に出会う
- ② その環境を見に行く
- ③ 必要な環境を探す
- ④ 必要な環境を作る
- ⑤ 必要な環境を借りてくる
- ⑥ 必要な環境を準備しておく

またこうした方法を進めていくときには、保育者が子どもたちと一緒に取り組んでいく場合と、子どもたちだけで取り組んでいく場合とがある。

3. 環境を構成するときの要因

保育において環境を構成するとは、子どもたちの園生活や活動が充実したものになるように、その時々状況をつくり変えていくことであるともいえる。しかしどのような要因を考慮していくことが、子どもたちの充実感を生みだすことになるのだろうか。その要因としては、次のようなものが考えられる。

- ① 生活的要因
 - ・天候や気温の変化
 - ・生活時間の流れ
 - ・行事などによる生活リズム
- ② 身体的要因
 - ・身体的欲求
 - ・身体的な疲労度
 - ・動くことと休むことの身体リズム
- ③ 活動的要因
 - ・場の位置
 - ・空間的な高さや広さ
 - ・活動の見通し
 - ・活動に必要な物の性質や種類、個数
- ④ 心理的要因
 - ・楽しさ
 - ・目的感
 - ・意欲
 - ・環境への思い
- ⑤ 関係的要因
 - ・仲間の有無
 - ・仲間の人数
 - ・仲間の人間関係
 - ・仲間関係の絆の強さ
- ⑥ 発達の要因
 - ・どこまで子どもたちで解決できるのか
 - ・方法や技術の有無
 - ・継続性
 - ・自信と回復力

4. 園生活にはどのような環境が必要なのか

乳幼児期の生活が充実していくためには、必要な環境というものがあるように思う。いま園生活において保育が充実して展開されるためには、次のような環境が必要になると考えられる。

- ① 安心して生活できる環境
- ② 身体を自由に動かせる環境
- ③ 心身ともにくつろげる環境
- ④ 自然や生き物にふれられる環境
- ⑤ 自由に探索したり操作したりできる環境
- ⑥ 自由に想像したり創造したりできる環境
- ⑦ 仲間とじっくりと過ごせる環境

幼稚園や保育所の施設・設備を考える場合に、こうした環境が保障されているかどうか、重要になってくるのではないだろうか。